

「話す」以外のコミュニケーション

今回、授業において、主に盲ろう者の方について学習してきました。その中で、コミュニケーションの方法が話すこと以外にもあることを自分たちの体験の中で、身をもって学ぶことができました。授業で学んだ方法以外にも障害のある方とコミュニケーションをとる方法を今回紹介したいと思います。

①手話

初めはろう(耳が聞こえない状態)で、手話を使ってコミュニケーションをしていた方が、のちに目も悪くなり盲ろうになった(「ろうベースの盲ろう者」ともいう)場合に多く使われています。

手話を見ることで理解するという場合もありますが、全く見ることのできない、全盲の障害者の場合は、通訳者の手に直接ふれて、表している手話の形を手で読み取る、**触読手話**、**触手話**を使うこともあります。

②手書き文字

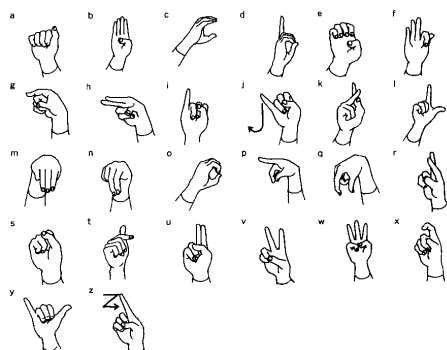
盲ろう者の手のひらに文字を書いて伝える方法で、「手のひら書き」とも言います。その他にも、通訳者が盲ろう者の指をとって、もう一方の手のひらや机などに書いていく方法もあります。

自分で実際に体験してみたことがありますが、いつが文字の終わりか判別がつかない、理解できない、といった場合が多く、慣れるのに時間がかかってしまう作業であると感じました。

③指文字

聴覚障害者の間で一般的に使われている**日本語式指文字**を、盲ろう者に見せたり触らせたりにして伝えます。日本語式指文字だけを用いて通訳を受ける盲ろう者もいますが、実際には手話通訳の際に補助的に使われることが多いようです。

手話のように言葉を手で表すのではなく、アルファベット一つ一つを手で表し、文章をつなげていくものです。



このように、障害者の方とのコミュニケーションには耳で聞く言葉に代わり、目で認識する以外にも、触って直接確認する、共通認識を持つ手話言語を使って話すことなどがあることが分かりました。私たちが日常生活で、話す以外のコミュニケーションを使おうとするとき、よく知られている、手話や筆談以外にも使える手段を知っておくことで、その方が一番安心していただける形で会話をすることができるのです。

会話をすることで、日々の喜びややりがいを感じることができたり、新たな発見をすることができるのは、みんな同じだと思います。たくさんの人と話す機会を増やしていくためにも、これらのコミュニケーションスキルは多くの人とシェアしていきたいと思いました。

参考文献

<https://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/resource/blind/z02002/z0200204.html>

(障害保健福祉研究情報システム 盲ろう者のしおり 1998)